大本和歌抄

1765
17

184

1765
17

文永和歌集第十七

冬部二

子刻　水有

霰　水有

霜

ツヾク

改頁

伊豆国 熊坂村 堂蔵書

千鳥

三行ハカトル

鄧ふ和

ちどりなく吉野の川の岩ねこけ　ときすぎ
河ふるさと　六条のみこ

さゝなみ　ちやうけぬ　吉野は　ゆきのうへなれば　ちどりなく也

鄧ふ和　中納言家持

新拾冬

ひさかたの　あまのかはらの　ちどりなく　夜ふけ　月　こゆ

天平五年　四月　花門裏　同

万十九

かつらぎの　みもろの　行　宮の　ちどりなく　ごとに　ものおもふ　人

鄧ふ和

百三

秋せこうあるるこの里

百十二 ものすけうきそのかいうらはなくふるる西なる戒ものを秋うれい

前海漢文百首歌合　後京極摂政

新続古今 こうひうれ東階 ものうらあらんそのうらにふるる也

夕中

中納言 もうこうはいうこうれ恨よ　ねて　ひうひてうちられぬとふる也

大納言師房

永保三年十月廿日新宮歌合ふる

寄河恋

ふるのうらうらにたるくるるこ名ものうらそよ

秋ふるる

源通俊卿

歌苑抄 さよふる秋さめてきけ秋のいさ小をのよそ　かい　ふり

歌系 小 ものうりうふるのうらひうりうと

うて

友 ものうこうはせよのうそうちうれ　誰　ひうん

久安百首 夕中　崇徳院御製

秋さしこ心 ものうらやなうちうれ　鳥　お　ものうりうを

光重院入道 二京新宮歌 夕中 秋立首中

後二位家隆卿

おうこうう方をうちうれ　ものうるうこうれ　ものあし

後鳥羽院御百首 夕中 如覚法師

あらすくあらのけうこのほのあらしはよりてあらうちはけ
ひの　　清輔朝臣
家集寒夜よしる
ひさ木ゝ行つるあとのかりの河原の河のうらよりたちのぼる　　聲
　　治
　　第六卷之隆房公
　　百首二首
さしくらやそのうらはけのよ霜よりあさくふししの雁
　　部ふ和
　　源重之
　　百代
ゆくさうよりもしもあれひさ木ゝ行つるあとの河原にあるなり也
　　冬歌
　　百代
　　信実朝臣
風あらやそのこすゑのうら吹よいてさうひてあるうくす也
　　建長八年

あうさよりしらうとすすうへやそのみるとて見えすすの水
　　友
この歌はあるこのかこれ女けさしうるんにのかさん
　　声
　　三字
　　部ふ和
　　六
ひのいそ波うれよすらうしうしよりやてあのきぬ
　　家集ふる
　　撰大和之忠信公
山川のみのしのぶのさしゆゆへよるく
　　同
あるひきへ刈田のかりてのうすうしうあるすくよるる
　　百首四首
　　吹飯院の歌
あうさこの野のへの月やふけぬん河音すてちうくうち

家集

ともよふあかすの河乃川の曉にかくのそすそく

入道大政大臣九十賀によせたる屛風乃歌　小弁

濱ちとりあとふみつけよつもりひとかもゆふたの河原のかはれうちもれ

後京極攝政

弘長元年百首

月のかけもかはのせのあけかたよふかりよやちとりなくらん

後九条内大臣

三百六十首中

さよ中にかひかけぬらしなりしまの河のおとにすゝそ

衣笠内大臣

建保四年内裏十三番歌合

従三位行家

うちわたす佐保の河原の夕霜におなしよるなき千鳥なくなり

後鳥羽院御製

ぬれたちしもの河曉なる

従二位家隆

なかそのかはるせかうにすみなるなかの月よかへり

建保四年百首御歌

光明峯寺入道攝政

見かさ山月まちいてゝさかの河のおとそうたかうなるかな

洞院攝政家百首歌

光俊朝臣

さえわたるさかのかはのおとまさるそらやちよさかけてなく

頼氏

よもの人ほとと

さむきよのさえまの河原にすむちとりなかへのはなよかはれ

遠江守光[illegible]千首歌合

法二位家隆卿

ひとすがらもみぢしてしかるこゝの川にたゝんうきりハ

藤原為家卿

具親卿

月ふけいくそたびすみくまのゝうらの月よりとりのぶね

有家卿

有海法師

にほてる浦の月をあらしやさびしんすゝ河原千鳥

源重房

藤原為氏

ふる雨つち山ゆふこえりいる女さびしすゝきうつにみる鳴

藤原為氏

文永千首歌

法二位家隆卿

ゆふされいされものゝとてのわさきのすゝきほのかにみるちくうん

正治二年百首歌

法二位家隆卿

うつしてもいうよさう雨ゝさよふるかもものうつ風のこゑ

文治六年五社百首

白川法皇御歌

河のほるるかりやうものいうれつきゝすのりとりたゝ玉冬

千首歌

民部卿為家

うちわひてふるるくいとのうつろうもの月ゝやこゑ

五百番歌合

西園寺入道前太政大臣

かさりてい衣手さしいつゝ川ちとりなく秋のあつゝの音

新続古今雜上

同歌合判の歌　後鳥羽院御製

さよ千鳥うちすさひぬるひくせよとそれなかちとり風にや
あらし
よみ人しらす

六帖三
大井川そのしからみかはしもにちとりしきりにこゑそきこゆる
なけきよる

堀河院御百首　権中納言師時

堀の井河くさすいつくれはあまたにてあせさよちとりかよふ
所なきまし

新古今集十
続千冬
霧かけの夜の月のあけかたに浪すさそちとりのけれ
やうれ

題しらす　よみ人しらす

万十一
あけぬへくちとりしきりしてなくしろたへのきみかたまくらなほあかまほしきよ

千首の歌　民部卿為家

さゆる夜のちとりしきりなくこゑのそてのたまくら夜半にそあけや
しぬらん

仁和寺宮五十首の歌　同

せとのえてはまよこるおきつしほのみちくる
なるかな

六百番歌合のうちに　慈鎮和尚

ねさめするよはのねさめに風ふけてとまりのちとりなく
なり

千五百番の歌合のうちに　同

しらへする海のうへの浦風にひかりもちりなくなく

能因日記古歌中
よみ人しらず

大和物語
ちはやふるひらそ海の浦よりかるちとりなれくるしさこそは
しらしや

冬歌中
後京極摂政

天の原見なとやいつもかはらぬ風はさゆるなれちとりなくなり
元永元年十月内大臣家歌合よめる
藤原忠隆

風さゆるまつかけやさしゆふしほにかけてなるちとりなく
千鳥
読人不知

いとどしくものおもひそれはわかなるのまも山もさよちとりなく

書

貫之集
あまの河うちわたりてもなくなるかはちとりなくゆふなみに
三条前歌
源顕仲

ちどりなくかはせのさとにかるよものそらねてまよふ
前中納言定家卿

思ひつるときちとり風さむきおもへ夜はのなかやらむ
元久元年隠岐院歌
修成女

きくたかにやちよさえこえゆくあかつきのしほのしきる
わたれはまたあかつきのうら風にさへなれあはれちとりなく
藤原雅経

夜をさむみ佐保よふかくちとりなく也あふくま川のせやしらん

具親朝臣

聞なれしちとりのなくなりてすまの浦わのさと問人もあはれなり

家集

鴨長明

貞応二年南庭百首 鏡御なる

数ならぬ身をあり明の月みても川せにけりなちとりなくなり

民部卿家

百首歌 浜千鳥

寂蓮法師

心あらんかたにぞきかんのもかけりとりかはやまのかはちとりなくなり

家集よみ人

後徳大寺左大臣

うちすさみさそはかりける夕風にわれそこゝろもすゝしかる

文治元年七社百首

民部卿成家

風わたるかはへの人のさよちとり夜ふかくとよみて鳴なる

名所百首中

参議雅経

風わたるもとのさとはいさゝちかくれぬるもしほやくあまの曙

さえわたる霜けのふしのつるなるこゑにとりてしとうきそたつ

従二位家隆

五七

河かせにになるちとりはかけもかりしをつのひろやゆのさかる

題しらず

よみ人しらず

建長七年顕朝卿家千首

光俊朝臣

762

763

河よりも中々に山の奥の風さわぐなりやまの
かる

光明峯寺入道摂政家百首

従二位家隆卿

秋すぎて山の端のよわりゆくさそりのよこぞや
らしき

二条院社にて御会に摂政家云々

月さゆるかこゝろひとつのきよれせよやよふかきみ山おそかけなき

秋よりふ淀のわたりの風かたるみ河の川のをさへたつさゆやふし

秋来ぬとおどろかれぬる中

さよ河のかはをわかさよみ嶋にいふむこちよ松ちえかく

題不知

中原師光朝臣

花

すすけ山のみ川のさも女をみさほやけてつまにとふ
とかり

百首中

さとりこし峰のはしひもおそつぬきかたにちらり
ゆく

寂念法師

家集女のりより海りて流れりしらの

大中臣輔親

夜ふりとのさの秋てさわきて又や桜もれつらの
きと

歌合中

行円法師

ゆふかけてあらやかゆのむしのすかてしさむかし
かくらし

家集歌合中

従二位家隆卿

うらさよふるの海松の枝のいつさのよ秋てさとえぬ又
千載

-1-

正三位家隆

さよちとりすまやこうらんきよのうらかきすまよさらなるなくらん

家集千五百番　俊成卿女

しほ海のなかりよもすからふく夜あるしのうらかひとりぬれねしやなく

一百首歌よみける　殷富門院小宰相

あさましくうら風さむしあちこちのしほつゝとさしてみるらん

建保二年一百首歌よみける　正三位家隆

みなとのなみさひしきれはあまのちりくもしほひのゆふくれにみるなく

あかしかたしほひのよるにしゆくさしもおきにかちたてるこゑ

光俊朝臣

あまひとはいつそこもこゝかとはたまちよりこそなみよみけるなくらん

後鳥羽院下野

猿海よみける　俊恵法師

あけぬとてかへりやするそあきいとゝいろあさみつかはよみけるなくこ

百首よみける　権中納言定家

しほかけのわきつ風やさむからむなのかりのあきくる海あらしよまよしくとなくあまるころも

つりそよ

よるさむきとこの松風さよふけてしほひのかたにあけはなるなく

鎌倉右大臣

ゆふつくよあかつきしほのあそこともなくはなるゝかなれてなく

秋の夜はいとゞしほかゝる海にてる月も色なきなみのうへかな

海邊月

あはぢしまかよふちとりのこゑさえてつきすむかたにあらしふくらん

文治六年女御入内屏風　後徳大寺左大臣

あけぬなりころもしほの海の波のはにおける霜をわけてちとりなくなり

百首哥よ　寂念法師

雲のゐるまよりしほかせのうら波にこゑさえてなくあけかたの空

建保四年百首中　家隆朝臣

ひろさはの風さむみ水くさのとのみすかたにちとりなく也

弘安元年中務卿親王家百首

権僧正公朝

ひさかたふく塩風さえてこほるなりよそのみなとにちとりなく也

みちのくしほのさしてぬいその松やちよのこゑよふちとりの声

同親王家歌合によめる

あら波のうみのしほひしからちゝしまつかひみにかゝるちとりなく也

家集西院百首中　清輔朝臣

うきしつみのちにしらぬしほ風に夜をかさねあかつきしほかせ

弘安元年百首御哥　法印定円

あはれなそていまいろこのうらのみなとふけいくちやかりぬらん

百首哥よまれし中　藤原為氏

766

人しれぬおもひのなかのうらみなるいもすみよしのあとなきそしられ

貞應三年百首　民部卿為家

うきしまのうらのまつかせよるなみのかすかにしろき神代なるらん

嘉禎四年百首

なかとこのかこのみなとのさよちとりあとかたもなきなみのまくらん

此集不入　後徳大寺左大臣

あかしかたのうらのおきつしほかせにのこるよのまのつきかけそすむ

寛喜元年女御入内御屏風海邊千鳥　常盤井入道太政大臣

あらいそのかせふくよはのちとりかなしのひてなくやなにはとのうら

名所百首　藤原清輔朝臣

さそはれてやまたのなかにさきそむるはなのかけこそあまのつりふね　花園左大臣家小大進

きさかたやあまのとまやのゆふけふりあはれにたえぬやとのつれつれ

象潟浦にてよみける　源仲正

ひきつれていさりのふねのうらつたひかすみてみゆるあまのまてかた

永承五年十月歌合によみ侍る　法性寺入道関白

秋風やゆふひのうらのみをつくしあまのもしほひはるかなるらん

大嘗會悠紀方御屏風千坂浦

[illegible]

文治元年立社百首　月

[illegible]

[illegible]

海

百首中

[illegible]

貞応元年洞院摂政百首　月

[illegible]

中務卿親王

[illegible]

文暦元年[illegible]

[illegible]

正治二年百首

[illegible]

洞院摂政百首　大納言経房卿

[illegible]

源実朝

六三

[illegible]

寛和元年百首　　第六番　左勝

ときもちらぬうくさの海の波の風　　あさるあらちのつき

遠仁元年ときの五十首合　同

行末ものまつよ秋のくる海風　　ふきてやかりのこゑ

三十番　冷泉

ちぬりつりつよりつよりの新宮　　あしのうれ葉の宮のうえ

遠久元年百首　同

ときもちらぬうくさの海の山のあらの三つ

寛治二年百首　右九番　左勝

海つらのうらうらあいそのなきしてうきしま

新千載

秋風さしのこつくさんに宮やゆくの海のかりのこりの更

遠保四年百首

さゆる夜いくくるあらしの海のかりのこりの更

浜千鳥

同二年百首　同

あけぬとやうくのいそのまよるの海の月もいん

西治元年百首

きりのこりくる雲のうえのなくこゑ　　天の戸

百首のうち

みのうのこゑのこゑれもはてぬ　　山

水海院内裏

きりのこりくる雲のうえのなくこゑ　　音せ

百首のうち

みのうのこゑのこゑれもはてぬ　　山

水海院内裏

きりのこりくる雲のうえのなくこゑ　　音せ

百首のうち

みのうのこゑのこゑれもはてぬ　　山

水海院内裏

光嘉院入道前関白家五十首歌読侍ける

さし夜のはてもなくよりしぬれてをかるのみか月ぞさびしき

前中納言光經

名所の中

後京極攝政

すみよしのきしもせにしやさよふけてかよふあかつきのかげにかはれる

建保二年内裏百首歌

順徳院御製

あきよしの松のおもしややらんゆふしほにまつもちりてうちよする

一百首歌

中務卿のみこ宗尊

あはぢしまさこひちよらるかたりしほみちぬたのむこのうらわたるふねのたよりや

新勅撰集

前関白兼實

そよかぜのひとあさりをうごかせてかぜ

西園三年百首

従二位家隆

きみが代はよしのゝもりにまつもにてまつのみさをも千代のためしに

又大嘉門院歌合

後九條内大臣

わかのうらやむかしのあとをたづねつゝまよひの中にいるぞかなしき

新古今集歌合

俊惠法師

ちぎりおかむいまのなつのよのまにあらしの風にまがふ月をば

新和

まさる人ぞしる

六三

ちぐさなきよの中のよのなかにおとにそへてもかぜやまさると

建保八年十首歌合

後鳥羽院

遠江国三年分百姓　四二位知行分

郡名帳

遠江国

拾四郡代百姓

内表裏人数千石

東京宮民部卿

中務卿親王領

三百百姓

三百百姓

郡名帳

拾伍郡代

三河国

三百百姓

七百百姓

うらつたふあらくへんしてたらまろうゆきかせこそほかたら ちとりなく

月前千鳥　　平忠度朝臣

さよふけて月かけさむし海のうへにさそみちくるしほにちとりなく

家集冬十首歌中　　西行上人

さえわたるうら風いかにさむからん千鳥むれゐるゆふさきの浦

千鳥を　古来歌合　　空敏法師

むらちとりみつしほさしてわたるなるのさかひえてよるやなくらん

法性寺入道関白家歌合旅泊千鳥　　藤原盛方朝臣

やりなをいそのとまやの枕にもさりさしていそうらきちとりなく

同集旅泊千鳥　　後京極摂政

あまのとのあけてとて鳴千鳥きこゆやちよのまきの戸やさすらん

浜千鳥を　古来歌合　　俊頼源信

たちかへりなきさに浜千鳥あとなくなりしとこをこふらん

家集　　従三位頼政卿

夜半こそ沖さまてさけはひとちとりのこゑのうちさきよする千鳥

百首歌　　清輔朝臣

あかつきのうらのとまやの海千鳥いそくつまこひにさらなく

正治二年百首　　新田院入道二品のみこ

あかつきのとこにしまろねのへうちよせかへし千鳥月よなく

772

光孝院入道二品親王家五十首歌

法二位花宮

ちはやふるかみのみむすびのかぎりとて
ゆきとうたがふ春の花かな

信実朝臣

ゆきのしたのあをまつかぜにおとすれて
おのえのさくらはなのみるかな

建長八年百首歌　藤原為氏

新うたのあをむらさきのうぶすなに
年をへて社の名月のかげ清し

前中納言定家卿

百首歌よみ侍

ちはやぶるかみのいがきにまがふまで
ゆきとうたがふ春の花かな

法二位家隆卿

百首歌

千五百番歌合

ちはやぶるかみのいがきにまがふまで
ゆきとうたがふ春の花かな

法橋顕昭

建保五年内裏歌合

ほとゝぎすなくこゑにこそ
ちはやぶるかみのいがきにまがふまで
ゆきとうたがふ春の花かな

ほとゝぎす

法橋顕昭

[illegible]

はるかぜ　摂政太政大臣

家集

いそちかのやまのくもねにかよふらん
　ふる雨

人しれぬ　帖三　思

遠き八年一百首の合　後九条内大臣

ゆふかぜのあさひくもりのなごりにて
　ふる雨

[illegible]

摂政

あかつきとなるこのうらにたなびくは
　名をおもの

今出川院御集

向

百首

[illegible]

西園寺二年一百首

契

[illegible]

摂政

寄雨

うしろさしてありしかるなのとのもの
　ふる雨

沈西法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首哥

ひろくさんにさかる神のうらふるのれもるこのうらは遠なる

藤原海色曉意

きぬぎぬよりうら神のうらふるの代のこゑはいかにあかれる

えいえい年十月内大臣家百合のうち

源為昌

波あらく神のうらのさよさいてよもすがらこそ波ふるなれ

新撰三年百首恋の部

あしすりのうらのはさまれてあるとのかひはいとはれる

光俊朝臣

ゆふるさのあしやのはたさのあれはよそにはれてすくもしるかる

元徳四年院御百首 為藤和尚

きくうらにあはれるこのさよふるようらふるこのすまの

元永元年十月内大臣家百合のうち

藤仲朝臣

さ波あけてなるこのうらよりあるはたごりやあるらん

永久四年九月院御百首哥

隆賢法師

ひろうりのうらふるこのうらふるこゑとりたちとりそなきもろもろ

信吾社百首

源二位頼政卿

7775

はるかぜにみだるるいとしらなみのとまるかたもわすれぬる

元徳四年院御所歌合　同

なくこゑのそれかあらぬかたちにつきあけのそらのかすみの白波

四位二千一百首　大納言有家

ゆきあけのそらにあとなくはまちどりかすみのなかのしらなみ

為兼卿

ふきかぜにたちまさるなみのしらゆきはなにぬきとめてかすみの

藤原為家

建長三年百首　前大僧正

ふきのうらやくるるかぜのあしたにはかすみのなかのしらなみ

千五百番歌合　隆信朝臣

はるかぜにたちまさるなみのしらゆきはかすみのなかのあさぼらけ

建保三年名所百首　後鳥羽院

はるかぜにみだるるいとしらなみのとまるかたもわすれぬるかな

よしの人まちをたてしらなみ

たこのうらのはるかぜにたちまさるいとしらなみのとまるかたもなし

後鳥羽院御歌　同

はるかぜにたちまさるいとしらなみのとまるかたもわすれぬるかな

家集

はるかぜにたちまさるなみのしらゆきはかすみのなかのあさぼらけ

御歌所

はるかぜにたちまさるなみのしらゆきはかすみのなかのあさぼらけ

為兼卿院四番

770

長

[illegible]

建保三年[illegible]百首　信三位[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

新六三

[illegible]

通

建仁元年[illegible]百首

[illegible]

[illegible]

同

4三字ハ

建久二年十[illegible]百首　藤中納言定家卿

[illegible]

三字百首

[illegible]

同

文治三年百首

相

[illegible]

同

建久七年百首歌合

同

[illegible]

池

[illegible]

重[illegible]

[illegible]

文治六年五社一百首　同

[illegible]

[illegible]

正治二年百首のうち　法勝寺院御製

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

花山院御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建久六年百首　法勝寺院御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建保四年百首

隆信卿隆信

同年名所百首

常盤門院

永久四年百首 増田池 山家院大臣

貞治二年百首

後九条内大臣

建長八年百首合

信実朝臣

よの百首歌合

隆信卿

さむしろやつらぬきしのぶ夜のけぶり

同

哀

あはれなりとりのはやしのもんりのこゑ

お大納言為家卿

洞院摂政百首

後嵯峨院女

うちつけに雲のつくさぬ音ときて月の

千五百首歌合

摂政家権大納言

雲のうへよりのぼりつきかくれ

雲のとりのこゑ

779

雲雀

源師賢朝臣

百首中

源仲正

家集ハ二首

百首中

寂蓮法師

続後拾遺

貞応三年白河百首ノ内 眺望

民部卿

光長院入道二品ノ御

眺望

信実朝臣

光俊朝臣

実清朝臣

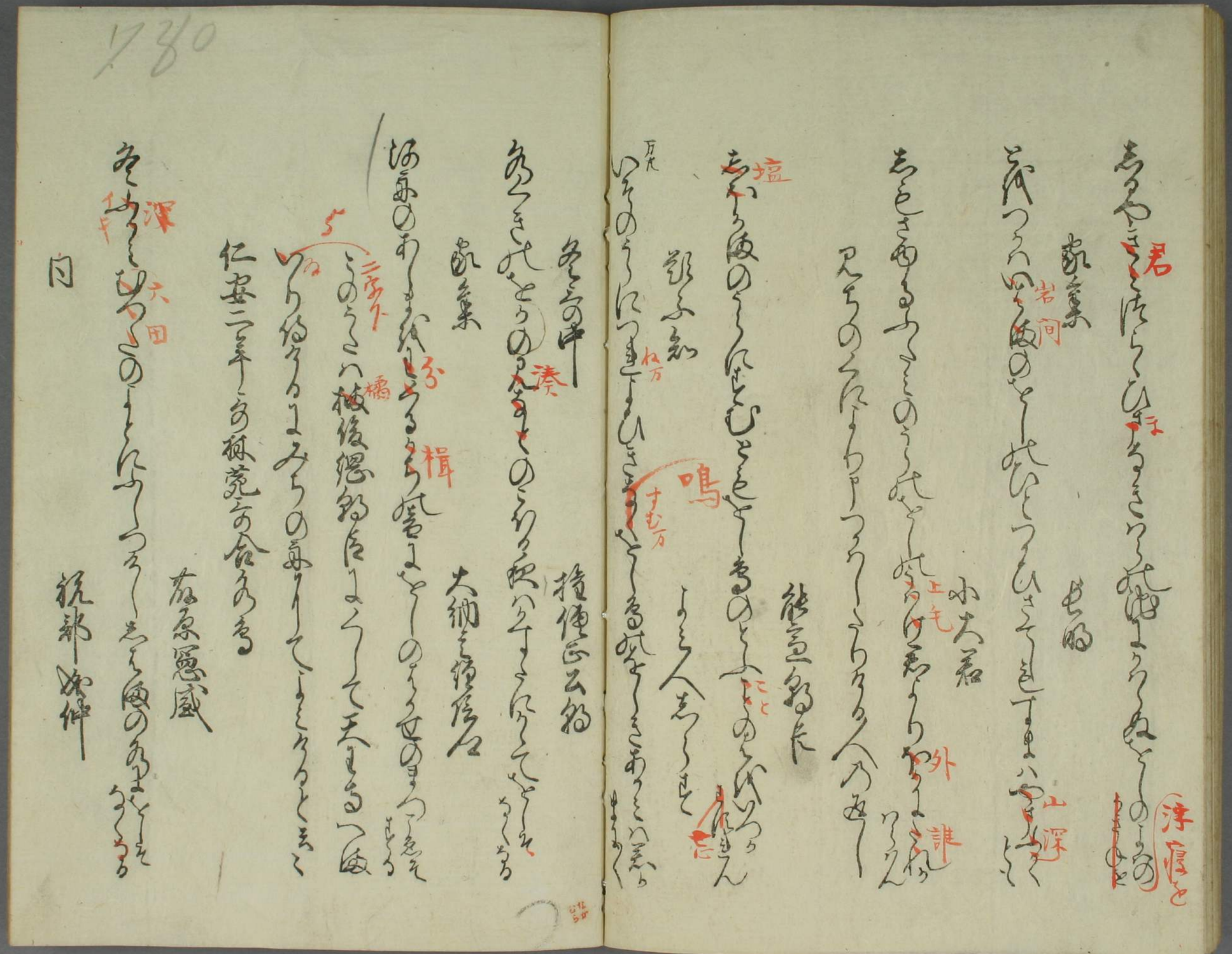
河

新勅撰四

新勅撰中

日

1780



(清寂を)

君

岩間

山深

上毛

外誹

埣

ねむ方

鳴

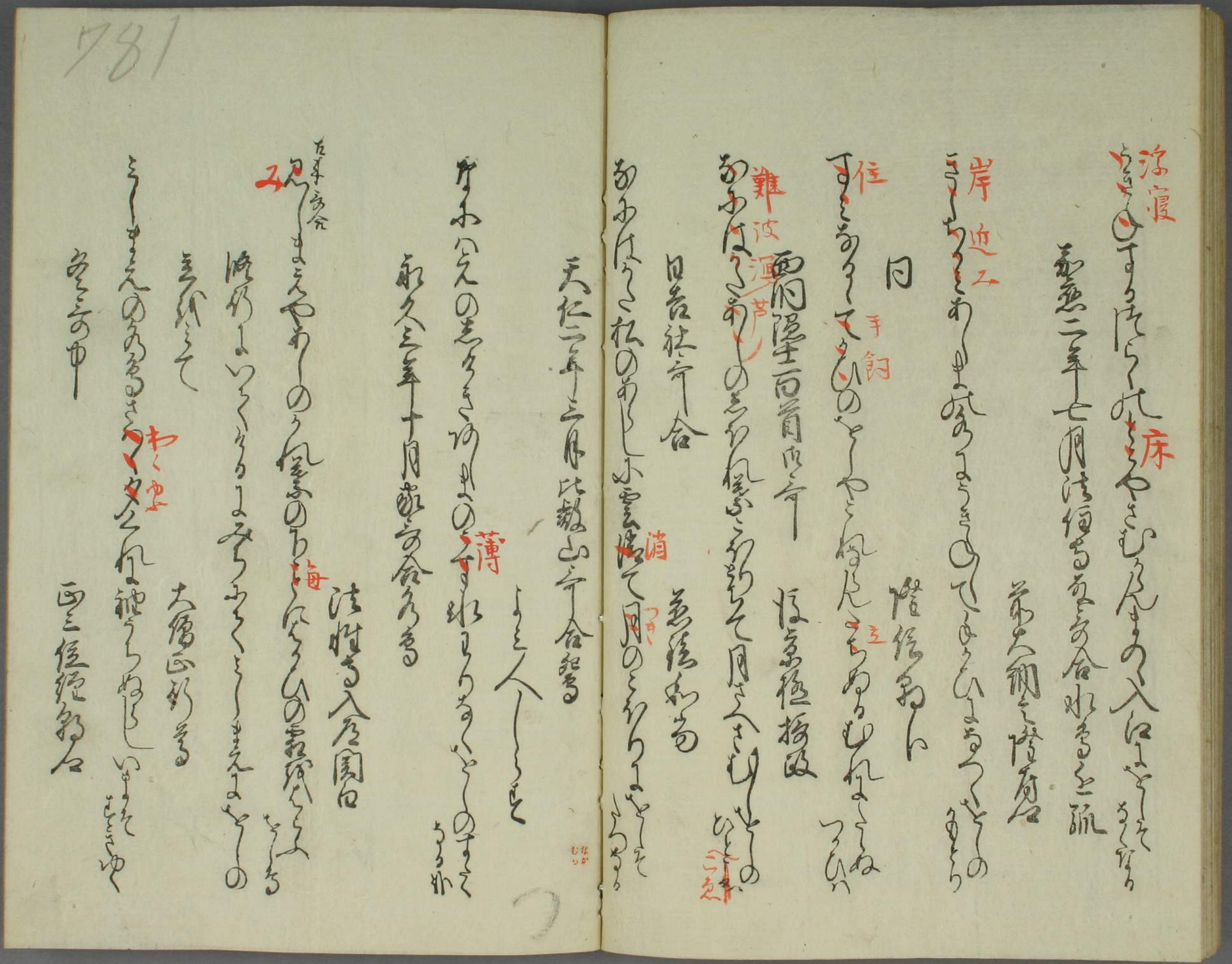
湊

楫

橋

深

六田



782

[illegible]

永享六年十二月俊盛卿記歌合

[illegible]

天仁二年藤原合歌

[illegible]

六百番歌合

[illegible]

藤原為家卿

[illegible]

仁安二年右林院殿歌合

同

[illegible]

源重賢

同

[illegible]

藤原親俊

[illegible]

大納言経通卿

[illegible]

永久四年平宗盛卿記

[illegible]

983

千五百番歌合　後鳥羽院御製

そてのうへのあれのこの

新後撰入道前太

家集百首

うつせみのとなてわるうものうらのあとなくのうら

嘉禄元年五月祝賀法眼角宮合歌

観

ふるさとのうつしうつしのかすのこ

ひとしらす

氷　家集

現

わさ氷りとけもやすとこやのいけのはすはのしも

那仲納言

ゆく

ふるのあとにさわいうてのしも

建保元年二月童歌合　池邊蘆

西行法師

蘆

ちやのいけのみきしのあしはうれてはあるかてあを

なにはの中かるあしを

記載なし

なさしいこ　壱

なにはのいけのいけのいけのいけのいけ

常金

なにはの家の

大津皇子

新古今

万三

ものおもふ知

なにはのいけのいけのいけのいけ

万三

新古今

なにはのいけのいけのいけのいけ

鳴

湯原王

河淀

志

忠貴

日

日

日

五

あしかりのうらひよりてさむきあさけ
よこしまくしす

百十四 芦

ゆふの霧よりくもりてかりくもりさむきゆふ
べとそのうん

新六三

新古今

春日院入道二品親実家歌十首

寄道法師

わかの浦よりきりふる船のうらとそ浪のうは
とてくる

光俊朝臣

ゆふねりふうきよりすくる鴨の子の親よりはなれとしきけ
いまの頼

文永歌合 弘安

敬神 礼在汀鳥

第中納言家歌

ゆふうらの山のあけくれてきりのうちにしきけるのうらを

枯

春日院入道二品親実家歌十首 同

あしくものうきのうらのうらのうらのうらのうらのうらのうらのうらの

汀

文治元年十月廿九日左大臣家歌合 中書王

月うけ

見なれてくいこまもちりやとそもれるれるまもの

名 残 同 宿 住

柳葉新作

いさ

ゆく雲はあとをとのうらのうらのうらのうらのうらのうらのうらのうらの

後九条内大臣

家集 為秋卿

毛夜

源仲正

渚の宮

春歌 雅経卿

十番歌合

春歌 雅経卿

785

あつまのうきしまのまつにたちかくれ
あまをとめらがなみだ合ふ　摩下道法師
あらしふくひらのみやまのまつかぜに
ふるひさしくもなりにけるかな　浦
弘安三年稲荷社百　五条門院四条
さのこゑをまつもむれゐるみづうみの
あしのはまよりあらはれにけり　跡　わ
同二年拾遺文百首　同
ときとなほ源の川と枕すてゝ
ながれふる
六三
音にのみきゝて秋のゆふぎりの
ようへ　ちかし
ちはら部
ゆふぎりの
ようへ　ちかし
ゆふぎりのわけこゝろはいもせやま
あきのゆふぎり
ゆふぎりのなかにとかくぬぎいそひ
ゆふぎりの
正三位知家
同
ゆふぎりのはるのこゝろはしらぬ
ゆふぎりの
光俊卿
同
ゆふぎりのきぬぎぬのそらにたちそ
ゆふぎりの
西園寺二条中納言
ゆふぎりのたちやまぬうちのつけ
ゆふぎりの
紀皇女方
ゆふぎりのたちやまぬうちのつけ
ゆふぎりの
ゆふぎりの
万三
かるのゆきの入江のくまなきかも
玉意二
みちのくの中ちかき海
法師

786

四のこう羽色さやけし　軽かるたけのうそのつくしんやもくうん

天つちの二字の字　順

をうこうのかあのこいかりよりて世りの行ひさかあをを

家集名をあ中　基俊

ゆうこうのうしいすれとあ名　うの

家集源あるかを　憶イ

門さしてうこのしやうあうしかりさうこの　わ

堀川院の時百首　辛崎

ちるこうるわきたもれわのあちかのすくこ風のさくうの　村　わ

わを

三条入道内大臣

なきれなのうけあうりてうこんうちもあうちもの秋　しの

四番二条一百首　源師光

御あのこきうに場所るあちこかけてこのうこ海　かよ

三百六十番歌合　光登法師

霧をいたにつてうこ海のめうこにつこうあちもしの　わせ　とり

家集　惠慶法師

うこ人いれうこ海　沖

このうこいかうつ波こけ　二字下

鄙光世してあのうこ　か

あうこひうこを鄙　5

787

[illegible]

[illegible]

[illegible]

748

二百六十

[illegible]

やまとことばよつきて花まへのみさかりつくさをしうせて物つくりとなく暑さ

つくさをしうせて物つくりとなく暑さ

寛治二年紀伊国十首合歌

[illegible]

[illegible]

遠保四年内裏十首歌合　前斎院越前

[illegible]

同四年内裏合歌　絶

[illegible]

同

[illegible]

百首歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

789

森

[illegible]

俊恵法師

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

779.0

ふる雨まぜの会　　階信名所

つまワけ落やつ[illegible]そ[illegible]音せぬ瀧[illegible]

雨業名所中　　法二位雨情

[illegible]やう[illegible]もの山[illegible]

[illegible]都[illegible]

[illegible]

[illegible]

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

[illegible]

洞院摂政家百首　藤原定家

[illegible]

家集中

[illegible]

月

[illegible]

二百五十首中

[illegible]

月

[illegible]

[illegible]月池のうちのりこち　元輔

[illegible]

洞院摂政百首氷　藤原定家

[illegible]

月

[illegible]人のつくるとうのうす氷[illegible]

二百五十首中　摂家様摂政

大井河[illegible]

[illegible]百五十首

月

[illegible]

百首四十一首

あさましくこそ[illegible]

四季

法[illegible]

寛元三年廿四日法名水

法[illegible]

三十六人歌合

[illegible]

遠保三年内裏歌百首 法水

春歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

799.3

建久八年一百首の合　西二位忠定卿

[illegible]

新勅撰入道二品親王家百首

[illegible]

中納言のみこ通俊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今夜ハ氷磯毋　源仲正

見るといふこのことをみぬすれたひのまさをやもぬあさ
うかりけやあさつゆ海ヨリ氷のそこ世ヨリひぬらひの

西院二年百首　出羽門内官

あふさかせらる波ハ風さえてあしのうれ葉ハしらひ
氷ハ月祝ヨ

同

わるのそらふくやあらのぬるんこりそ波ハくあさのつ
ゆ

二条院御時

あふけはうさ見さいの風をさしぬれいこりこたはくるこの
つゆ

拾中納言ヤ方

あふけはうさ見さいの月見へてこりそ波ハ
氷ハ

忠盛朝臣

きさらかく冬の山風ふけいに氷そ波の世きしめ
やまのや

遠保四年内裏十首の合

信西入道

けさこそハ沖ハ氷のあをわさるひさのあうこ氷とぬ
洞院摂政家百首歌　藤原家卿

海ヨリの氷をかよいたりかのわたりふとそそとこそ
寛治二年百首　内

ふけのうこれいけの氷さひこそりよりふりあるもす
冬

0995

貞応三年百首　　円

みねのこの山のこずえつせこそのうらゆきなれ

康元二年毎日百首中　円

思ひのこの風とわたる山ばのうらはあらしの雪

左近衛

冬三十中

恵慶法師

久安百首歌　　実清朝臣

さえてしぬのうきすりはせもむすぶ氷

左近衛

中務卿親王家歌合

いろうつりさゆるあきしそらまさしてするのこゑもかりがね

百首歌　　光俊朝臣

松ばのいそのさむけのゆふぎりに氷ぞうつる

左近衛

建保六

あかねさすうつろのあけぬうちのしもとけ

鄙ふ和

さいのよこうりのくまのうすきこほりに

千五百番歌合

年業法師

ゆふさつくとりのこゑもさびしきしのの

霧

十訓百首歌中　　摂政太政大臣

ゆくすゑはまくらにのこす夢ぢかな　ふかくぬれぬる袖の露

西洞二年百首歌のうち

　　摂政太政大臣

冬ごもりさぶしの山のあしたくてすそ野のまさきみな霜

同　　源師光

吹風のあらくくすのまきたちてそのはもさらぬまきのうち

冬の中　　中宮大夫師光

ひさかたのあまのかぐやまのこずえまでつもるの雪ちる

文永百首荀忘肖梛學風霜膳紛〻作之

　　為兼和尚

ゆきはひやれ風はこずえのさとりてさくひさむしたるいろの梛

　　仲実卿

雪集雲をゆふこえてこれいたるまきのうれふつふる雪

　　清浦内侍

久安百首

いそのかみよはあれはてしのうたくのたまうやそ尼

　　家

文治六年女院入内屏風三条入道左大臣

ゆくすゑはけのうりはひさるてなさしるのは霜ぞ

さそうのもよあくれのりまとそて

西行法師

こゝかしこにちりてゝうゑ紙つゝみ歌中つゝみ花のちりしを

建保六年文暦百首　第中納言家歌

ゆのうへよりのひろいさしかさしてゝ雪とそきく

三首　行潔雪

冬の日乃ゆくさいそくかさやらあれねとさいれとそきこえし

文治五年百首　月

あくれはるゝ雲の山路よ風さえてこゝろふかきまくこゝの

六条のみこ　さ波

冬ゐの夜の中

いつれとうきはといはんくん雪ふるかまつさゝ行のわ風のとゝめこ

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

月をすむしら海つくりえい雪ふりうゝけるうゝふこそ

百首　行家雪

さゆる夜の月ゆゝしいうゝるゝこそ松のゝりの雪ゝ

柳葉新集

ゝちりつゝるものゝうゝものゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

千五百首　後二位宰相家隆

月さゆる庭の木ゝをゝよゝくゝ雪のゝりゝゝゝゝゝゝゝ

建保四年内裏内会　山月

あくまてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

同文年間裏の合会歌　同

やさのぬまよりあらはれいでたるあさちをきしろ

藤原定家朝臣

月よりもあはれなりけりかいしたくゆはたろくさのう

家集

行のおくのわさて松よりあらはれいでたるのこころは

西行法師

承久三年四月百首　法二位家雅経

さひしさのあまぬまやの夕煙わくこころ霞のまやけん

白馬の合の会歌　寂蓮法師

ふるまうまのあとのあとと風すさまじ霞ふきこうたの

百首歌

ある秋のそらの風のひとしきりあらはれ霞

玉葉久

春歌四の合

中納言為兼

やまのうへにつもれる雪にそらとけて霞まとくこ

歌人名歌

数一

ふるさとのはるのそらけてかすみのうへのよ霞

寒

ふるさとの河霧やそらにこもりんそめうしよ霞

三河社よりもりうた

春のきやうの霞のこころにはたちきのさくときけは霞こそ

霞　百首歌の合会歌　為兼卿

799

春

[illegible]

[illegible]

同

[illegible]

従二位藤隆卿

同

[illegible]

[illegible]

従三位[illegible]卿

同

[illegible]

[illegible]

従三位[illegible]卿

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五

見それぬりあそれ松原作らの郭とひしをめと
れをあぬ
を

大水和歌の抄巻第十七終